

2023年度 大学入学共通テスト の出題傾向と今後の入試動向

学校法人 河合塾 教育企画開発部 地歴・公民科

1 はじめに

2023年度大学入学共通テスト（以下、共通テスト）は、大学入試センター試験の後継として3年目の実施となった。科目別の平均点（本試験）は、地理B 60.46点（昨年度 58.99点）、世界史B 58.43点（昨年度 65.83点）、日本史B 59.75点（昨年度 52.81点）であった（表1）。

表1 地歴・公民の共通テスト（本試験）平均点

	2022年度		2023年度	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
地理B	58.99	16.23	60.46	14.32
世界史B	65.83	21.16	58.43	20.30
日本史B	52.81	17.47	59.75	17.14
倫理、政治・経済	69.73	15.25	60.59	14.07

2 2023年度共通テストの出題傾向

地理Bは、分量・難易度ともに昨年なみであった。ほぼ全分野からまんべんなく出題されている。昨年同様、単純な文の正誤判定問題はほとんどなく、基本的な知識をふまえた、統計表・統計地図・グラフなどの複数の資料を組み合わせた読み取り形式の問題で構成されており、短時間に多くの情報を読み取り、判断する処理能力が求められている。

世界史Bは、すべての大問で資料（史料文・図版・家系図・表・グラフ）の読み取り問題があり、会話文を利用した問題が昨年より倍増、ページ数も4ページ増加し、難化した。資料や会話文など複数の材料から必要な情報を読み取り、総合的に判断する問題が多く、注意深く解答することが必要である。

日本史Bは、資料（史料・統計など）の読解問題が増加、歴史事象を多面的・多角的に考察させる問題が多く出題されたが、近現代部分においては比較的取り組みやすく、正誤問題も総じて誤りが明確な問題が多かったため、全体としては易化した。

3 今後の共通テストの動向

◆現行課程における共通テスト

地理Bは、共通テストに移行後の3年間で傾向に大きな変化はみられず、同様の傾向が続くと考えられる。問われ

る内容はセンター試験から変わっていないが、共通テストでは各設問に図表が用いられるようになっており、基礎知識に加え問題文の読解や図表を読み取る力が求められる。

世界史Bは、2021・2022年度では図表やグラフ・地図などを利用した問題は比較的少なかったが、2023年度はそれらを活用した問題が増加し、今後も継続すると予想される。教科書本文の文字情報だけでなく、図版やコラムに目を通してよくとよいだらう。

日本史Bは、史料・図版・略系図・統計表など、多様な資料を利用した出題は継続されるだろう。2023年度本試験第5問 問4では、高校生3人の発言の可否を判断させる問題が出題された。こうした場面設定の読解が必要となる問題は引き続き出題されると思われる。

◆新課程における共通テスト

2022年11月に公表された令和7年度大学入学共通テストの試作問題では、地歴公民6科目の配点と問題構成が示された（表2）。『地理総合、歴史総合、公共』は、「地理総合」「歴史総合」「公共」（各50点）から2つを選択して解答する。『地理総合、歴史総合、公共』の問題の一部は他科目と共通となっており、『地理総合、歴史総合、公共』と『地理総合、地理探究』では、「地理総合」の25点分が共通問題であった。『歴史総合、世界史探究』『歴史総合、日本史探究』についても「歴史総合」の25点分が『地理総合、歴史総合、公共』との共通問題であった。

試作問題の出題傾向は現行課程の共通テストをふまえたものとなっており、複数の初見の資料を読み解いて正答に

表2-1 試作問題『地理総合、地理探究』問題構成

大問番号	分野	配点	設問数	テーマ
第1問 ^{※1}	地理総合	12	4	難民問題とその解決策
第2問 ^{※2}	地理総合	13	4	自然環境と防災
第3問	地理探究	17	5	気候システム、生態系と人間社会
第4問	地理探究	17	5	国や地域の結びつき
第5問	地理探究	17	5	アフリカに関する地誌的考察
第6問	地理探究	24	7	地域調査

※1 『地理総合、歴史総合、公共』の中の「地理総合」第1問と共通。
※2 『地理総合、歴史総合、公共』の中の「地理総合」第2問と共通。
※設問数は配点単位でカウント（以降の出題科目も同様）。

表2-2 試作問題『歴史総合、世界史探究』問題構成

大問番号	分野	配点	設問数	テーマ
第1問*	歴史総合	25	9	人々の接触と他者認識についての授業
第2問	世界史探究	13	4	世界史上の都市についての授業
第3問	世界史探究	15	5	人の移動と移動ルートの選択についての授業
第4問	世界史探究	25	8	国家と宗教の関係に関する資料
第5問	世界史探究	22	7	ある主題を考察する授業(人々の活動の目的)

※『地理総合、歴史総合、公共』の中の「歴史総合」第2問と共通

表2-3 試作問題『歴史総合、日本史探究』問題構成

大問番号	分野	配点	設問数	テーマ
第1問*	歴史総合	25	9	人やモノの移動とその影響
第2問	日本史探究	15	5	総合 学びの歴史
第3問	日本史探究	15	5	古代 藤原京の時代の特徴
第4問	日本史探究	15	5	中世 中世社会における対立・紛争の解決方法
第5問	日本史探究	15	5	近世 江戸時代の政治・社会(大坂)
第6問	日本史探究	15	5	近現代 関東地方のある市の近現代史

※『地理総合、歴史総合、公共』の中の「歴史総合」第1問と共通

いたる情報処理能力や、授業場面などの問題設定の読解力も試されている。地理については、課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察する問題が多く、基本的知識を組み合わせながら地理的概念を見出し、それを手掛かりに諸資料を分析したり、問題解決に向けて考察したりする力が必要となる。歴史では、世界史・日本史ともに時間認識・空間認識を意識した問題が多く、単純な知識ではなく、時代の特徴や歴史事象の因果関係を把握しているかどうかが問われている。

受験に際しては、「地理歴史」「公民」から2科目を選択する場合、同時選択が不可能な組み合わせがあるので注意したい。例えば『地理総合、歴史総合、公共』で「地理総合」と「歴史総合」を解答した場合、もう1科目は『公共、倫理』と『公共、政治・経済』のいずれかのみが選択可能である。なお、共通テスト『地理総合、歴史総合、公共』での出願については、国公立大難関大や医学科を中心に、利用を認めていない大学(学部)が複数あるため、十分確認をしておきたい(表3)。私立大学の共通テスト方式については、利用可と不可が同じ大学内でも混在しているケースもあり、注意が必要である(表4)。

4 今後の国公立大二次試験・私立大入試の動向

国公立大学や私立大学の大学独自試験の出題範囲については、現行課程では4単位のB科目を出題する大学が圧倒的に多いが、新課程においては、現時点では「総合科目」+「探究科目」5単位分の出題範囲とする大学と、「探究科目」のみ3単位分の出題範囲とする大学に二分されている。公民についても、「公共」を含む大学と含まない大学に分かれている(表5)。

大学独自試験の出題傾向としては、国公立大学の二次試

表3 国公立大 共通テスト「地歴公民」の設定状況*

- ・『地理総合、歴史総合、公共』は74%の募集区分で利用可能ただし、難関大、医学科では認めない大学が多い
- 『地理総合、歴史総合、公共』は利用不可の大学例
難関10大(北海道大、東北大、東京大、東京工業大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大)
医学科(秋田大、福島県立医科大、群馬大、東京医科歯科大、福井大、岐阜大、三重大、島根大、岡山大、熊本大、鹿児島大 など)
- ・公民科目(『公共、倫理』『公共、政治・経済』)利用不可の大学はほとんどみられない
現行課程では難関大を中心に、公民の一部科目が選択できない大学があるが、新課程ではほとんどの大学で公民の2科目とも利用できる
- 例) 東京大の「地歴公民」の選択科目(現行課程 ▶ 新課程)
『地理B』『日本史B』 『地理総合、地理探究』『歴史総合、世界史B』 ▶ 『地理総合、地理探究』『歴史総合、世界史探究』『倫理、政治・経済』『公共、倫理』『公共、政治・経済』

表4 私立大 共通テスト「地歴公民」の設定状況*

- ・『地理総合、歴史総合、公共』は同じ大学内で利用可と利用不可の学部・学科、方式が混在しているケースがみられる
- 例) 中央大の「地歴公民」の設定状況
すべて選択可:文、経済、国際情報
『地理総合、歴史総合、公共』は利用不可:法、総合政策、国際経営、商
- 『地理総合、歴史総合、公共』は利用不可の大学例
國學院大(法)、上智大、成蹊大(文、経済)、順天堂大(医)、日本大(商)、明治大(共通テスト方式(経営以外))、明治学院大、南山大、京都女子大、同志社大(グローバル地域文化、経済)、立命館大、追手門学院大、関西大、近畿大 など
- 例) 早稲田大の「地歴公民」の設定状況
『地理総合、歴史総合、公共』は利用不可:教育、社会科学(共テ利用)、法、政治経済、スポーツ科学、人間科学
『地理総合、歴史総合、公共』『公共、倫理』は利用不可:社会科学(共テ併用)
『地理総合、地理探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』のみ利用可:文、文化構想
『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』のみ利用可:国際教養

表5 大学独自試験「地歴公民」の出題範囲*

・地理歴史の出題範囲	
「総合科目」を含む大学	「総合科目」を含まない大学
北海道大、千葉大、東京外国語大、一橋大、名古屋大、大阪大、九州大、学習院大、慶應義塾大(文、法、経済)、駒澤大、上智大、成蹊大(法)、成城大、専修大、中央大(文、総合政策、経済、商、法-5学部共通)、東海大、東京女子大、東洋大、日本大、明治学院大、立教大、愛知大、中京大、南山大、立命館大、関西大、関西学院大 など	筑波大、東京大、京都大、神戸市外国語大、青山学院大、桜美林大、杏林大、慶應義塾大(商)、順天堂大、成蹊大(文、経営、経済)、中央大(法-学部別選抜)、武蔵大、早稲田大*1、名城大、京都産業大、同志社大、龍谷大、近畿大、神戸学院大、西南学院大*1、福岡大*1 など *1 地理は総合科目を含む
・公民の出題範囲	
「公共」を含む大学	「公共」を含まない大学
高崎経済大、東京学芸大*2、愛知教育大、獨協大、学習院大、駒澤大、成城大、専修大、中央大(文、総合政策、経済、商、法-5学部共通)、東海大、日本大、法政大、明治学院大、立教大、愛知大、立命館大 など *2 「公共」を単独で出題	筑波大、神戸市外国語大、青山学院大、桜美林大、杏林大、成蹊大、中央大(法-学部別選抜)、東洋大、武蔵大、早稲田大、中京大、名城大、京都産業大、同志社大、龍谷大、関西大、近畿大、西南学院大 など

※河合塾調べ、2023年5月末現在。国公立大は対象大学が公表した募集区分単位のデータの前期日程で集計、私立大も含め一般選抜が対象。最新の入試科目は各大学公表の入試要項をご確認ください。

験では、ほとんどの大学で論述形式が採用されており、これまでも思考力・判断力を要する出題がなされているため、現在の出題傾向と大きく変わらない可能性が高い。一方、知識を中心に問う傾向の強い私立大入試では、思考力・判断力を問うために、資料を分析・考察しながら、課題解決の力をはかたり、因果関係や時代概観を把握しているかを問うたりする問題が増加する可能性がある。